

それでも生きる

ぜんぶ、ボクのせい

白鳥晴都 川島鈴遥

松本まりか 若葉竜也 仲野太賀 片岡礼子 木竜麻生 駿河太郎

オダギリジョー

監督・脚本：松本優作

エンディング・テーマ：大滝詠一「夢で逢えたら」(NIAGARA RECORDS)

製作：スタイルジャム、クロックワークス、ビターズ・エンド、グラスコー15、ミッドシップ、コンテンツ・ホテンシャル

制作プロダクション：スタイルジャム 宣伝：ミラクルヴォイス 配給：ビターズ・エンド

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©2022「ぜんぶ、ボクのせい」製作委員会

bitters.co.jp/bokunosei

愛を見失った少年の鮮烈な心の叫び
孤独を抱えた人々と出会い、絶望の果てに希望を見つめる

現代社会の中で愛と希望を渴望する少年の行方は—— 鮮烈なラストに心揺さぶる衝撃作が誕生!



児童養護施設で暮らしている優太は、施設にも学校にも馴染めず母親と暮らしたいと願っていた。ある日、ついに施設を抜け出した優太は母親の家を探し当てるが、そこに優太の居場所はなかった。行くあてもなく街をさまよう優太は、海岸に停めた軽トラで寝泊まりしているホームレスの坂本に出会い、廃品回収の仕事を手伝うことに。そして、坂本のもとに時々顔を出す女子高生の詩織に心惹かれていくが、そんな、穏やかな日々もある事件によって終わりを告げる——優太の最後の一言、その表情に込められた想いとは。



オーディション抜擢・白鳥晴都 × ヒロイン・川島鈴遥 × オダギリジョー 駿才・松本優作監督が鋭い眼差しで社会のリアルを見つめながら、一人の少年の成長を描く!

近年、社会問題を取りあげ、そこで懸命に生きようとする子供達の姿を描いた作品が話題を呼んできた。そして今、力強い語り口と鮮烈な映像で少年と孤独を抱えた人々の交流を描いた『ぜんぶ、ボクのせい』が誕生。監督・脚本は、秋葉原無差別殺傷事件をモチーフにした『Noise ノイズ』(2019年)が国内外の映画祭で話題を呼んだ駿才・松本優作。主演は繊細な佇まいのなかに時折鋭い眼差しを見せるオーディションで選ばれた新人の白鳥晴都。ヒロインは『ある船頭の話』(2019年)で注目を集める女優・川島鈴遥。そして、若手二人を支えるのは唯一無二の存在で多彩な活躍をみせるオダギリジョー。その他、松本まりか、若葉竜也、仲野太賀、片岡礼子、木竜麻生、駿河太郎が個性派キャストが参加し骨太な人間ドラマを生み出した。

エンディング・テーマには大滝詠一「夢で逢えたら」

日本ポップ史を代表する名曲「夢で逢えたら」は大滝詠一が、“大滝詠一”名義で作詞・作曲した楽曲で、数多くのカバーバージョンが存在するスタンダードナンバー。8月3日(水)には7インチ・アナログレコードが発売。



白鳥晴都 川島鈴遥

松本まりか 若葉竜也 仲野太賀 片岡礼子 木竜麻生 駿河太郎 / オダギリジョー

監督・脚本: 松本優作 製作・プロデューサー: 甲斐真樹 製作: 藤本 欽 定井勇二 前信介 鈴木仁 水戸部 晃
アソシエイトプロデューサー: 永井拓郎 ラインプロデューサー: 中島裕作 撮影: 今井孝博(JSC) 照明: 金子康博 録音: 高田伸也 美術: 仲前智治 衣裳: 篠塚奈美 馬場恭子 ヘアメイク: 山井 優
音楽プロデューサー: 田井モトヨシ 編集: 田巻源太 助監督: 野本史生 制作担当: 中村哲也 スチール: 久保田智 エンディング・テーマ: 大滝詠一「夢で逢えたら」(NIAGARA RECORDS)
製作: スタイルジャム、クロックワークス、ビターズ・エンド、グラスゴー-15、ミッドシップ、コンテンツ・ポテンシャル 制作プロダクション: スタイルジャム 宣伝: ミラクルヴォイス 配給: ビターズ・エンド
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
2022 / 121分 / カラー / 日本 / 5.1ch / ビスタ

Twitter: @bokunosei0811 公式サイト: bitters.co.jp/bokunosei